

No.2972

2020-2021年度

会 長 橋爪 誠治
幹 事 井上 修平
R広報委員長 菅原 佳典



島 海碩 書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
例会場 紀州有田商工会議所6F
事務所 〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020

創 立 昭和34年6月15日
ホームページ <http://www.aridarc.jp>
e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



ロータリーは
機会の扉を開く

2020-2021年度クラブ方針

自制心と結束力を繋ぐ理解のハーモニー
「学ぶLearning・感じFeeling・動くMoving」



本日のプログラム

令和3年5月27日 第2973回

- ・クラブ協議会
- 次年度への申し送り
- ・ソング:「四つのテスト」

次回のお知らせ

令和3年6月3日 第2974回

- ・会員卓話:成川守彦君「ロータリーは大きく変わるのか?ロータリー未来形成委員会について」
- ・ソング:「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告(第2972回例会)

開催日 令和3年5月20日(木)

点 鐘 [橋爪(誠)君]

ニコニコ箱の報告 [上野山(栄)SAA]

橋爪(誠)君:松村会長エレクト、本日の次年度に向けての熱いメッセージ発信よろしくお願ひいたします。会員の皆様に想いが届きますように!!

井上君:松村さん、次年度よろしくお願ひします。

松村君:本日、次年度会長の時間よろしくお願ひします。

川口君:本日の次期会長のための時間、松村会長エレクト宜しくお願ひ致します。

上野山(栄)君:松村会長エレクト、2回目の会長ありがとうございます。ご協力させていただきます。

出席報告

本日の会員数28名

(出席規定免除会員9名)

出席会員数24名

(出席規定免除会員6名)

会長の時間 [橋爪(誠)会長]

「オードリー・タン氏」

台湾はSARSの経験を活かし、医療専門家や政府、民間、社会全体の努力が合わさった結果新型コロナの抑え込みに成功している国と言えると思います。今回、台湾の行政院の閣僚のひとりである、デジタル担当の政務委員を務めている、オードリー・タン氏の本を紹介させていただきます。



デジタルのもたらす近未来を見据えながら、どう行動す

べきかの指針を投げかけてくれています。

まずは、コロナ対策でデジタルをどう活用して行ったかという、公衆衛生の観点から言えば「少数の人が高度な知識を持っているよりも、大多数の人が基本的な知識を持っているほうが重要である」と位置づけています。また縦割り行政で、一部門では解決できない問題が生じた場合は、部門間で異なる価値を調整する必要がある場合など、部門間を横断する問題には、デジタル技術を使ってクリアにしていく部門として、オードリー・タン氏はデジタル担当政務委員として活躍されたようです。

国民にコロナの情報に触れ合うようにする、トイレトペーパーの買い込み防止を訴えるために、敢えてユーモアで国民の買い込みを抑制する心遣いを見せたり、いち早く手洗い推奨の動画をアップしたり、基本の考え方にベースになっているのがFast(素早く) Fair(公平に) Fun(楽しく)をモットーに対応していたようです。

では、オードリー・タン氏のデジタル化の考えに触れたいと思います。

台湾の高速通信5Gは田舎から、重点的に進めているようです。情報の国民格差を無くすためのようです。

AIはあくまでも人間を補助するツールであること、また競争原理を捨てて、公共の価値を生み出すことを求める方が、スムーズであることを教えてくれています。オードリー・タン氏は、AIと創造力の定義は日々変化するものである。AIと人間の創造力は、相乗効果や、相互学習の世界がまっとうだと考えています。AIが創り出す新しい世界で、新しい価値を創造していこうと言っています。

ある日、自分の仕事がAIにとって変わってしまい敗北感を感じるより、機械に任せるところは任せて、自分はより良い公共の価値を生み出すと思えば、機械が私の仕事の一部であり更なる価値を生み出す楽しみがそこにあると言っています。

台湾では年齢の壁を越えて、若者と高齢者のクリエイト

する「青銀共創」という考えを大事にしています。「青(青年)と銀(高齢者)が共に価値を創りだす」をモットーに発想しているようです。

For the people から With the people に考えをシフトさせることで、より人に寄り添い意見を聞く大切を教えてください。今後はデジタルに関する「スキル」よりも「そよう素養」が非常に大事だと考えています。素養を学べるフィールドを有田RCと位置づけ、未来の会員候補にアピールしていければと思います。

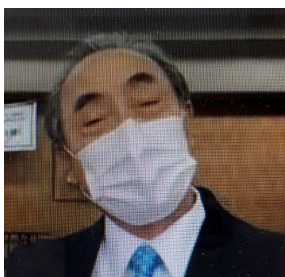
また興味ある会員は是非、共にデジタル化の波を楽しみながら、活用できることは共に活用しながら、その行動がご自身の仕事にも少しでもお役立てなればと思います。With the peopleの考えをベースに、共に楽しく進んで行きたいと思います。微力ですが、サポートは必ずいたしますので、興味をもって楽しみましょう。

幹事報告 [井上幹事]

1. ハイライトよねやまが届く
2. 訃報 地区の青少年.ライラ委員会副委員長 近藤大
玄様が5月14日ご逝去されました
3. 山口君転勤に伴い退会
4. 11回定例理事会
4月試算表 承認
5. 6月例会プログラム 承認
職業紹介事業(3月16日)決済の件 承認
パソコン購入の件 承認
その他
有田市よりみかん海道の桜木(5~6本)の枝が道路まで伸びているのでロータリーで処理できないかとの申し入れがあったため、有志と造園業者に手伝ってもらい処理する。(26日 悪天候でも決行予定)

次期会長のための時間

2021-2022年度 有田ロータリークラブ クラブ運営方針



会長エレクト
松村 秀一 君

私が有田ロータリークラブに入会してから12年がたちました。長いようであつという間の12年間のようにも思えます。入会当時の会員で今も在籍しておられる方は12名です。すでに卒業された方も含めて、いつもご親切にご指導いただきましたことに感謝申し上げます。私の後で入会された若い活力のある会員にも日々刺激をいただいております。

12年前の有田市は今よりも少し活気がありました。先日の脇村会員の卓話にもありましたが、有田市の人口は

12年前、3万人今では2万6千人です。4千人の減少です。しかもこの人口減少は加速しているようです。

しかし、人口減少は必ずしもマイナスではありません良い面もあります。例えば地価が下がったので新築住宅の敷地面積は倍ぐらいになったのではないのでしょうか。

職業奉仕 ロータリーならではの考え方

国際奉仕 ロータリークラブのダイナミックなところ

親 睦 ロータリーでは一般的な親睦とはかなり違う

まずお話ししなければならないことは「4つのテスト」です。入会すると「4つのテスト」

一言行はこれに照らしてから一

と書かれた紙をもらいました。はじめは古めかしい日本語だと思っただけでした。

しかし、ある時、1、真実かどうか？ このシンプルな言葉の重要さに気付きました。同時に自分がいかにええ加減な人生を歩んできたかにも思い至りました。後に続く

2、みんなに公平か？

3、好意と友情を深めるか？

4、みんなのためになるかどうか？

これらの異なる視点から検討することでより良い行動ができます。

私の職業分類は不動産売買の仲介です。

年に数回法律についての講習会があります。たいてい講師は弁護士です。契約不適合責任、以前は瑕疵担保責任といわれていました。売買する不動産についてその物件を自分が買うときのように詳しく調査して説明しなければならないと解説されていました。

ある時その説明が変わりました。2-3年前からは自分がその物件を買うとき以上に詳しく調べて説明しなければならないと講師先生の言葉の調子が少し変わってきました。

自分のこと以上にというのは超我ということだと思っていましたが、その後その弁護士の先生はロータリーの会員であることが分かりました。なるほど、超我の奉仕そのものだったわけです。

4つのテストと超我の奉仕は職業奉仕の根幹になるものです。

近江商人の三方よし、顧客満足度云々、お客様のために、とかいろいろ聞いていましたが、その本当の意味は分かっていたなかつたなと思いました。

この職業奉仕は大袈裟な言い方ですが人生の宝物だと思っております。

ロータリークラブは月に約3回、様々な職業の人が例会に集まり話をし、食事をし、卓話を聞き、議論をします。そして地域社会で奉仕活動を行います。異業種の人が集う、集りは他にもありますが一年に40回以上集まる会はありません。会員どうしが相談しあい協力して奉仕活動を活発にする会も知りません。こんな機会を得られるところは他には知りません。

ロータリーの会員が地域の人のために積極的に事業をしようとするのを見て、入会当初、変わった人たちだなど

思いました。それを楽しみながらしているということは今では理解できます。なんとなくですが。

ロータリーには国際奉仕があります。米山記念奨学生の世話クラブになれます。地区内の様々な奨学生の話も聞くことが出来ます。

ミャンマーの農家への職業訓練事業もありました。これもロータリークラブの会員でなければ経験できない事でしょう。

このように、入会していなければ経験できなかったであろう事があります。また、会員でなければ出会えないような人との出会いがあります。こんなロータリークラブにより多くの人に入会してほしいと思っています。積極的に周りの人に入会を勧めたいと思います。人口はどんどん減っていますが入会しそうな人はまだまだ大勢いらっしやと思っています。

2021-22年度RI会長はシェカール・メータ氏です。会長テーマは SERV TO CHANGE LIVES 日本語で「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」です。シェカール・メータ氏はインドのカルカッタ・マハナガル・ロータリークラブ所属です。「奉仕するとき、誰かの人生だけでなく自分の人生も豊かになる」、「人びとの世話をし、奉仕することこそ、人生の最高の生き方」と述べ、奉仕プロジェクトへの積極的な参加を会員によびかけています。

国際ロータリー第2640地区の2021-22年度ガバナーの豊岡 敬 氏は地区方針を「**広げようロータリーの光を！**」としました。豊岡氏は述べています。

「一隅を照らす、これ即ち国宝なり」これは、伝教大師・最澄。の言葉です。我々ロータリアンは、職業を通じて、社会への奉仕を通じて、青少年の育成を通じて、社会の一隅を照らす光として輝いています。

世界を襲うコロナ禍にあって、我々一人一人が、希望を照らす光となり、その光の輪を広げて行き、志を同じくする仲間が増しましょう。今こそ世界がロータリーの光を必要としています。

豊岡氏は様々な活動を推奨していますが、一番重要なイベントは、広報及び公共イメージの向上として「ロータリー奉仕デー」の開催です。これは2つ以上のクラブでプロジェクトを計画し、参加者の25%以上がロータリー会員でない事メディア等で周知しその様子をソーシャルメディアにて紹介するとともに、ロータリーショーケースに投稿する。というものです。

次年度のクラブ運営について

次年度のクラブターゲットは「**クラブで親睦を深め 一人一人がそしてクラブが地域を明るくする**」といたします。

これは、かつて聞いたことのある「入りて学び 出でて奉仕せよ」を今風にしたものです。今のところクラブの例会と一緒に食事をして話をする、あるいは各委員会で話し合うなどの機会もほとんどありません。今年度のように、オンライン出席やDVD視聴で例会に参加できるようにする予定です。

しかしながら、月に一度ぐらいは密にならないように広い会場で例会を開きたいと思っています。

また、奉仕事業もなかなか行えない状況が続きますので、会員一人一人が周りの人に笑顔になってもらえるように奉仕しましょう。こんなことは会員の皆様が日々されていることと思います。それを再確認していただき、実践し。

コロナ感染のリスクが下がればクラブとしてプロジェクトをすすめて行いたいと思っています。

次年度会長エレクトの井上修平さんは直前幹事でした。

その経験を生かして次年度理事会をサポートしていただくことを期待しています。

直前会長の橋爪誠治さん

副会長の中元耕一郎先生。私は病気にならない予定ですが万一私が欠席するときに備えて準備をお願いします。

幹事兼会計の川口健太郎さんは完璧にその業務をこなしてくださることを私は知っています。よろしくお願いします。

SAAの脇村さんは次年度が始まるころには免疫を獲得されておられると思います。とにかく安心安全な例会の進行をお願いします。机椅子の配置にも細かい配慮をお願いします。

委員長になっていただく役員・理事の方には委員会を取りまとめ事業を進めていただきたいと思います。

クラブ奉仕委員会の上野山栄作さんには5つの小委員会を取りまとめていただき、楽しい例会をめざしてクラブ運営の責を担ってほしいと思います。

職業奉仕委員会 嶋田恵さんにはローテーションデーの開催をお願いします。

社会・青少年奉仕委員会: 福原陽司さんをお願いしております。昨年の職業奉仕事業のように地域に役立つ事業の開催をお願いします。

国際奉仕委員会: 北畑貴行さんをお願いしました。コロナ禍の中でもできる国際奉仕を考えていただきたい。

ロータリー財団委員会と協力しRIや地区ガバナーの方針に沿った活動をお願いします。

米山記念奨学会委員会と協力し米山学友と連絡が取れる状況を確立していただきたい。そして、オンラインで会員や学友同士が交流できるような企画していただきたいと思っています。

戦略計画委員会: 引き続き上野山栄作さんをお願いいたします。中長期的視野でクラブのあり方を検討していただきクラブ内で将来ビジョンを共有できるようにしていただきたいと思っています。

しばらくの間、例会ごとにお会いできる状況ではありません。委員会活動も顔を追わせて話し合うことも難しいかもしれません。そこを工夫してクラブの活動を進めていかなくてはなりません。

半年後ぐらいに集団免疫を獲得できると仮定し、そのタイミングを見据えて事業の計画を練っていただければと思っています。

皆様御協力よろしくお願いします。

閉会・点鐘

(橋爪(誠)会長)